現時代の万能の宝剣ー先軍

朝鮮・平壌

チュチェ97（2008）

現時代の万能の宝剣—先軍

朝鮮・平壌
外国文出版社
チュチェ97（2008）

まえがき

金正日（キムジョンイル）総書記の先軍政治のもとで朝鮮では、領袖、党、軍隊、人民の統一・団結が強化されて革命の主体が鉄のごとく固められ、全国の軍民が強盛大国を建設するための総進軍を推し進めている。

金正日総書記の先軍政治は、朝鮮革命の必勝不敗の万能の宝剣であり、導きの旗じるしであり、朝鮮の尊厳と栄誉の象徴である。

金正日総書記の先軍政治を理解し学ぶことは、世人の時代的趨勢となっている。

総書記は2003年1月29日、朝鮮労働党中央委員会の責任幹部たちと『先軍革命路線はわれわれの時代の偉大な革命路線であり、朝鮮革命の百戦百勝の旗じるしである』という談話を行った。

本書は、この著作を解説したものである。

編 集 部

金正日総書記の著作『先軍革命路線はわれわれの時代の偉大な革命路線であり、朝鮮革命の百戦百勝の旗じるしである』は、朝鮮革命の実践において達成した業績と経験を総合的に分析し、それに基づいて先軍革命指導、先軍政治に関する思想と理論を全面的に体系化し集大成したものである。

著作は、先軍政治の本質的特性と優越性、正当性と独創性、その偉力と生命力を深く解明し、先軍政治の偉力を引き続き力強く発揮するための課題を明示した。とくに、革命の主力部隊に関する問題に新たな科学的・理論的解答を与えた。

著作は３つの体系に大別できる。

1　先軍革命路線、先軍政治は、金日成（キムイルソン）主席の銃重視の思想と路線を継承し発展させた革命路線であり、政治方式である

2　先軍革命路線、先軍政治は、時代と革命の要請を正しく反映した革命路線であり、政治方式である

3　先軍政治の生命力と先軍の旗をいっそう高く掲げていくための課題

総書記は著作の前の部分で、こんにち、朝鮮革命は朝鮮労働党の指導のもと、先軍の旗を掲げて成功裏に前進しており、朝鮮の先軍政治は歴史の厳しい試練を経て実証された必勝不敗の政治であり、革命勝利のための万能の宝剣であると指摘し、銃をもって切り開き勝利してきた革命偉業を銃をもって守り、それを継承し達成することは、朝鮮労働党の不変の信念であり意志であると述べた。

1　先軍革命路線、先軍政治は、金日成主席の銃重視の思想と路線を継承し発展させた革命路線であり、政治方式である

著作のこの部分では、先軍政治の本質と特性、銃重視思想の継承、発展、先軍時代の地位を明らかにしている。

1）　先軍革命指導、先軍政治は、軍事重視思想を具現した革命指導方式であり、優れた政治方式である。

先軍革命指導、先軍政治は、軍事を先行させ、軍隊に依拠して社会主義偉業全般を推し進める革命指導方式であり、社会主義政治方式である。

一般的に指導方法は党が革命と建設を導く体系と方法であるとすれば、政治方式は、主に国家が社会に対する統一的な指導と管理を実現するために依拠する体系と方法である。したがって、指導方式、政治方式の問題をいかに解決するかということは、どの社会、どの時代においてもきわめて重要な問題として提起される。

朝鮮の先軍革命指導、先軍政治は、何よりも軍事を第一の国事とする革命指導方式であり、政治方式である。

現時代は自主の時代である。

帝国主義との熾烈な対決のなかで社会主義偉業を達成するためには当然、軍事が第一の国事とならなければならない。

軍事を第一の国事とするというのは、軍事を他の事業よりも国の第一の重大事とし、国防力の強化に第一義的な力を入れるということである。

朝鮮の先軍革命指導、先軍政治は次に、人民軍の革命的気質と戦闘力に依拠して祖国と革命、社会主義を守り、社会主義建設全般を力強く推し進める革命指導方式であり、政治方式である。

朝鮮で革命性と組織性、戦闘力がもっとも強い集団は人民軍である。

人民軍は、生死をかける武器である銃を握り、社会主義偉業を達成するための第一線に立つ職業的な革命家の隊伍である。それゆえ人民軍は、社会のどの集団より勝る革命的気質と強い戦闘力を有する勢力となる。

軍隊に依拠しなくては祖国と革命、社会主義を守ることも、社会主義建設全般を力強く推し進めることもできない。

したがって、先軍政治においては軍事が第一であり、軍隊が革命の中核部隊、主力部隊であり、軍隊を強化することが基本となる。

先軍政治は、他の政治方式とは本質的に区別される特徴をもつ優れた政治方式である。

先軍政治の本質的特徴は、それが人民軍を無敵必勝の革命武力に強化して祖国の安全と革命の獲得物を守る政治方式であり、人民軍を中核とし、主力部隊として革命の主体を強固なものにし、社会主義建設全般を革命的に、戦闘的に繰り広げる政治方式であるというところにある。

人類の歴史には軍隊を重視した類型の政治方式はあったが、それらはすべて支配者が自らの権力の基盤を維持したり、他国を侵略するためのものとして実施されてきた。

しかし朝鮮の先軍政治は、単に軍事を先行させるということにのみその本質があるのではない。

先軍政治は、軍隊を不敗の革命武力に強化して主力部隊として推

し立て、祖国を守り、革命の主体的力量を全面的に強化し、社会主義建設を力強く繰り広げていく。

まさにこれが先軍政治に貫かれている核であり、これに朝鮮の先軍政治方式が他のすべての政治方式と区別される傑出した優越性がある。

2)　朝鮮の先軍政治は金日成主席の銃重視の思想と路線を継承し発展させた政治方式である。

先軍政治は金日成主席の銃重視、軍事重視の思想と路線を基礎とし、原点とする政治方式である。

人民大衆の自主偉業、社会主義偉業を達成するたたかいは、帝国主義とあらゆる反革命勢力との力の対決を伴うため、軍事は革命の勝敗と、国家と民族の興亡を左右する基本的な問題となる。したがって強力な革命武力があってこそ、革命で勝利し、勝利した革命を守り、国と民族の運命を自主的に切り開いていくことができるのである。

革命の銃剣、そこに革命偉業の勝利があり、国と民族の自主独立も繁栄もある。これは、金日成主席によって示され、歴史によってその真理性が実証された革命の原理であり、法則である。

主席は朝鮮革命を指導する全過程において、銃重視、軍事重視の思想と路線を一貫して堅持してきた。

主席は、革命活動の初期にまず武装隊伍を立ち上げ、銃剣に依拠して祖国解放の歴史的偉業を達成し、祖国を解放した後に党と国家を創建した。

主席は、解放後も革命の各時期、各段階でつねに軍事問題に第一

義的な関心を向け、革命武力を絶えず強化することにより、革命と建設の前進を軍事的に確固と裏付けた。

金正日総書記は、金日成主席の銃重視、軍事重視の思想と路線を変化する今日の情勢に即して深化、発展させ、一つの社会主義政治方式として新たに定義づけた。

総書記は、先軍政治によって主席の軍事思想と業績を固守し、それをさらに高い段階へと発展させ、チュチェ偉業の勝利の道を切り開いている。

2　先軍革命路線、先軍政治は、時代と革命の要請を正しく反映した革命路線であり、政治方式である

政治の科学性は時代と革命の要請、革命の環境と情勢をいかに正しく反映するかによって左右され、それはすなわち革命路線と政治の正当性と優越性を特徴づける基準となる。

著作のこの部分では、先軍政治の科学性とともに独創性、正当性、威力について明らかにしている。

1)　先軍政治は、朝鮮革命をめぐる国際的環境と情勢を科学的に分析し、それに基づいて実施した政治方式である。

先軍政治は何よりもまず、急変する情勢の要請を正確に反映して打ち出した政治方式である。

1990 年代に入り、ソ連と東欧諸国では社会主義が崩壊し、世界の政治構造と勢力関係は大きく変わった。

帝国主義反動勢力は、社会主義世界体制の崩壊を奇貨として反

帝・自主勢力に対する攻勢を強め、とくに世界唯一の超大国として台頭したアメリカ帝国主義は、国際舞台で強権と専横をほしいままにし、他国の自主権を蹂躙しながら、世界制覇の野望を遂げようと侵略と戦争政策をいっそう悪辣に追求するようになった。

アメリカ帝国主義者とその追随勢力は、力によって朝鮮を圧殺しようと軍事的侵略策動をかつてなく強める一方、政治、経済、思想・文化、外交の各分野にわたって朝鮮に圧力をかけ、窒息させようとした。

帝国主義反動勢力の孤立・圧殺策動によって、朝鮮革命は歴史に例のない厳しい試練と難関に直面することになり、朝鮮は単独でアメリカ帝国主義と真っ向から対立し、帝国主義侵略勢力の集中攻勢に立ち向かわなければならなかった。

帝国主義との対決は力と力の対決であり、反帝軍事戦線は国家と民族、社会主義の存亡を決する革命の基本的な戦線となり、第一の生命線となった。

こうして朝鮮では軍事に力を集中して人民軍を強化し、これに依拠することによって、国と民族の運命を救い、革命と建設を成功裏に推し進めることができたのである。

そのため、朝鮮では軍隊はすなわち党であり、国家であり、人民であると言うのである。軍事を軽視し、軍隊を強化しなかったならば、朝鮮は革命と建設はおろか、とうの昔に滅んでいたはずである。

先軍政治はまた、厳しい情勢のなかで大死一番の覚悟と闘志をもち、敵と断固と戦って勝利を収めるようにする政治方式である。

朝鮮の反帝・反米闘争は、厳しい祖国防衛の戦いであり、社会主義防衛の戦いであった。

そのため、革命的武装隊伍である人民軍だからこそ、先軍政治の旗手としての使命と役割を果たすことができたのである。

朝鮮の先軍政治は、千万回倒れようとも敵を討つという人民軍の気概、必勝の信念と意志を具現している。

人民軍を中核として全人民が英雄的にたたかったので、朝鮮は難局を打開し、勝利を収めることができたのである。

朝鮮革命のこうした実践的経験は、軍事を先行させ革命武力を主力とする先軍政治こそが、いかなる強敵をも打ち破り、いかなる難関や試練にも耐え、革命偉業の前進を確実に保障できる、現時代の革命の強力な政治方式であることを実証している。

先軍革命路線、先軍政治は、地球上に帝国主義が残存し、その侵略策動が続く限り、恒久的に堅持すべき戦略的な革命路線であり、政治方式である。

2)　朝鮮の先軍政治は、革命の主力部隊に関する問題を新たに科学的に解明し、正しく解決した政治方式である。

先軍政治はまず、軍隊を革命の主力部隊として推し立てた政治方式である。

総書記は著作で、史上初めて「先軍後労」の思想を打ち出し、軍隊を革命の中核部隊、主力部隊として推し立てたことについて述べた。

軍隊を革命の主力部隊として推し立てたのは、かつて唯物史観の原理に基づいて主力部隊の問題を主に階級関係の見地から論じていた見解に終止符を打ち、史上初めて革命の中核部隊、主力部隊に関する問題を根本的に新たに提起したものである。

かつては無産者か、有産者かによって革命性が左右されるとみな

し、もっとも徹底した無産階級が革命の指導階級、中核部隊とならなければならないと認められてきた。

総書記は、時代の発展と変化する社会・階級関係を深く分析し、それに基づいて革命運動史上初めて「先軍後労」の思想を打ち出した。「先軍後労」は、軍隊がもっとも革命的かつ組織的で戦闘的な勢力であるということから出発した思想である。

軍隊を中核部隊、主力部隊とする政治であるというところに、先軍政治の独創性があり、不敗の威力があるのである。

従来のマルクス主義革命理論は、労働者階級を革命の主力部隊と見なしていた。

マルクスは 19 世紀中葉、西欧資本主義諸国の社会・階級関係を分析したうえで、労働者階級が資本の支配とあらゆる搾取制度を一掃し、社会主義・共産主義を実現する使命を担ったもっとも先進的で革命的な階級であることを明らかにし、労働者階級を革命の指導階級、主力部隊として位置づけた。

これは、当時の資本主義社会の現実を反映した理論であり、その後、世界各国で労働者階級を主力部隊とした社会主義革命が勝利し、社会主義建設が進められた。それで社会主義偉業の遂行においては労働者階級を中核とし、主力として革命闘争と建設事業を進めることがたがえることのできない革命の公式のように認められてきた。

しかし、1 世紀半前にマルクスが示した理論と公式は今日の現実に合うはずがない。時代ははるかに進み、社会的環境と階級関係、労働者階級の地位も大きく変わっている。

資本主義が発達するにつれ、とくに科学技術が高度に発達して情報産業の時代に入るに伴って、労働者階級の生活基盤は変わり、労

働はますます技術化、知能化されている。その結果、労働者階級の隊伍はインテリ化しつつあり、肉体労働に従事する労働者より技術労働、知能労働、精神労働に従事する勤労者が急激に増えている。

それだけでなく、資本主義の発展に伴って、独占資本による支配が強化され、反動的なブルジョア思想と文化がいっそう氾濫する。これは、労働者階級の階級的自覚と意識化、革命化を抑制する強い作用を及ぼす。

このように、時代環境から見ても、労働者階級の労働と社会的地位、労働運動の実態から見ても、今日の労働者階級を産業資本主義時代やプロレタリア革命時期の労働者階級と同一視することは決してできない。今日に至って労働者階級とその役割に関するマルクスの理論が現実に合わないことは明白になった。

このような変化した時代環境と現実的条件の中で、独占資本の支配や帝国主義の侵略、戦争政策に反対する広範な大衆を意識化、組織化し、その中で中核となる人々を育て、革命勢力を拡大、強化するための新しい思想・理論と戦略戦術が求められている。

労働者階級を革命の主力部隊と見なすマルクス主義革命理論の限界は、それが社会主義社会における労働者階級の役割と階級関係の変化・発展、人間改造の合法則性について解明していないことである。

唯物史観に基づく従来の理論は、労働者階級が政権を握り、社会主義的生産関係を確立すれば革命は終わるものと見なしていたため、革命が勝利した後の社会主義建設の合法則的路程について正しく解明できず、とくに社会主義社会における人間改造、思想革命については提起することさえできなかった。

金日成主席は史上初めて、社会主義・共産主義建設の過程は、階

級関係から見れば、全社会の労働者階級化の過程となるとする思想を示し、社会主義社会における労働者階級の役割と階級関係の変化・発展、人間改造の合法則性を科学的に解明した。

主席の社会主義建設理論と指導により、朝鮮では労働者階級をはじめすべての勤労者が社会主義的勤労者となり、社会主義制度のもとで集団主義の原則に基づいて働き生活している。

朝鮮労働党は社会主義偉業の遂行において人間改造、思想活動を確固と先行させることで、人民大衆にチュチェ思想をしっかりと体得させ、全社会の革命化、労働者階級化を強力に推進してきた。こうして、朝鮮人民の社会・経済生活と政治的・思想的な品格には根本的な転換がもたらされた。

朝鮮人民は、党と領袖の指導のもと、社会主義祖国の懐の中で教育され鍛えられた革命的な人民であり、党と革命に限りなく忠実な立派な人民である。今日朝鮮では、党と領袖のまわりに一致団結した人民大衆が社会主義建設の強力な推進力となっている。

もちろん、朝鮮にはまだ労働者階級と協同農民との階級的格差が残っており、インテリの革命化、労働者階級化が完全に実現されたとは言えない。

労働者階級は依然として社会の先進部隊であり、他の勤労者に比べて階級意識と集団主義精神が高く、革命性が強い。そのうえ労働者階級は、人民経済の主導的部門である工業を担当しており、その中でも基幹工業、軍需工業部門の労働者は、革命と建設できわめて重要な役割を果たしている。

そのため、朝鮮では労働者階級を大切にし、労働者階級をさらに革命化し、その役割を高めることにつねに深い関心を払っている。

金正日総書記は著作で、人民軍を革命の主力部隊として推し立てたのは、革命の主力部隊に関する問題、革命軍隊の役割の問題に対する新しい見解と観点から出発したものであると述べた。

軍隊を革命の主力部隊として推し立てたのはまず、革命の主力部隊に関する問題に対する新しい見解と観点に基づくものである。

革命の主力部隊に関する問題は、革命の主体を強化し、その役割を高めて、革命運動を発展させるうえで提起される基本的問題の一つである。

社会のどの階級、階層またはどの社会的集団が革命の主力部隊になるかは、革命と建設におけるその地位と役割、その革命性と組織性、戦闘力によって決まる。

革命の主力部隊に関する問題は、どの時代、どの社会、どの革命においても固定不変のものではなく、階級関係に基づいてのみ解決される問題でもない。

したがって、労働者階級はいつどこでも革命の主力部隊になれると見るのは、従来の理論に対する教条主義的観点の表われであり、原理的にも合わない。

人民軍を革命の主力部隊として推し立てたのは次に、革命と建設における革命軍隊の地位と役割に対する新しい見解と観点に基づくものである。

総書記はいかなる既成の理論や既存の公式にもこだわらず、従来の理論に対するあらゆる教条主義的態度と修正主義的歪曲を徹底的に排し、情勢の変化と革命発展の要請に即して軍隊を強化し、その役割を高めて革命と建設を勝利の道に導いてきた。

総書記は、人民軍を革命の主力部隊として推し立てるのは、現在、

朝鮮革命における人民軍の地位と役割から見ても、軍隊の革命的気質と戦闘力から見ても、チュチェの革命偉業の遂行にとって必須の要求であると述べた。

今日、朝鮮革命の第一の生命線を守っている革命隊伍は人民軍である。人民軍は帝国主義の強敵に直接立ち向かい、党と革命、祖国と人民を銃剣をもって死守している。人民軍の銃剣、そこに平和があり、社会主義があり、朝鮮人民の栄誉ある幸せな生活もあるのである。これは、労働者階級も、他の社会的集団も代替することのできない人民軍の崇高な使命であり、もっとも重要かつ栄誉ある任務である。

人民軍は、朝鮮でもっとも革命的かつ戦闘的で強力な集団である。

革命性と組織性、戦闘力において人民軍より勝る集団はない。

人民軍は、党と革命に限りなく忠実な思想と信念の強兵であり、もっとも組織化された戦闘隊伍である。人民軍は党と領袖を決死擁護し、党の政策を決死貫徹し、党の偉業、社会主義偉業のために生命をもためらうことなく捧げてたたかう。人民軍の将兵は祖国と革命を銃剣をもって守る先兵であり、誰よりも祖国を熱烈に愛し、社会主義擁護精神が強く、帝国主義と階級の敵に対する敵愾心も強く、それに反対して徹底的にたたかう。

革命的信念と強靭な意志、戦闘的気迫を有する革命隊伍が人民軍なのである。

人民軍は社会のどの集団よりも集団主義精神が強く、組織性と規律性、団結力がもっとも強いのである。全軍は最高司令官を中心に一心同体となり、最高司令官の命令、指示のもとに等しく行動し、軍人のすべての生活と活動は軍事規律と規範に基づいて行われる。

集団主義の原則、組織性と規律性は人民軍の生命であり生活となっている。

人民軍の強い革命性と組織性は、まさに武装隊伍としての特性、革命軍隊特有の気質を反映したものであり、それは軍隊の戦闘力を高め、政治的・思想的威力を強める素地となっている。

先軍政治は次に、人民軍を強力な革命の主力部隊に強化、発展させた党と領袖の業績に基づく政治方式である。

朝鮮人民軍は党と領袖の指導により、革命の主力部隊としての使命と任務を立派に果たすことができるようになった。

革命に参加する軍隊や社会主義国家の軍隊だからといって、すべてが革命軍隊の品格と気質を備えているわけではなく、まして革命の主力部隊になれるものでもない。労働者階級と軍隊とを問わず、革命的党の指導のもとに意識化、組織化されてこそ、革命的な階級、革命的な武装力となり、革命において重要な役割を果たすことができるのである。

党と領袖の正しい指導を抜きにしては、いかなる革命の中核部隊を育てることも、広範な大衆を目覚めさせて革命隊伍に結束させることもできない。

人民軍は党と領袖の指導によって、真の革命武力に、無敵必勝の軍隊に強化され、発展し、革命の中核部隊、主力部隊としての栄誉ある使命と任務を立派に果たすことができるようになった。

金日成主席は、革命武力建設の原則と方法を示し、それを立派に具現して、人民軍を革命軍隊の典型にし、その強化、発展の万代の礎を築いた。主席は人民軍を党と領袖の軍隊、真の人民の軍隊として建設し、革命軍隊の政治的・思想的品格を立派に備えた、思想と

信念の武装隊伍に育て上げた。主席の指導により、自立的で近代的な軍需工業が創設されて発展し、全軍現代化の物質的・技術的土台が築かれた。

武力建設における業績は、主席の革命業績のなかでももっとも貴重な業績であり、それは今日、朝鮮が人民軍をいっそう強化し、先軍政治を実施するうえで強固な土台、貴重な資産となっている。

金正日総書記は、主席の建軍業績に基づき、人民軍を先軍革命の旗手に、主力部隊に推し立て、軍隊を強化することに全力を集中してきた。総書記は人民軍部隊を絶えず視察することで、つねに軍人のなかに深く入り、彼らを愛と信頼をもって見守り導くとともに、軍隊内での党の政治活動を決定的に強化し、軍隊を革命的に教育して鍛え、軍隊に必要なものであれば何ら惜しむことなく提供してきた。

総書記は、現代戦の特性と先鋭化した情勢の要請に即して、人民軍に朝鮮式の独特な戦略戦術をしっかりと体得させ、軍隊の軍事技術的準備を画期的に強める革命的措置を講じた。

こうして、人民軍の政治的・思想的品格と闘争気風に新たな転換がもたらされ、軍隊の戦闘力と威力はかつてなく強まった。

朝鮮人民軍は、名実ともに党と領袖の軍隊、最高司令官の軍隊として、革命の首脳部決死擁護の精神がみなぎる革命隊伍となり、最高司令官から兵士に至るまで、全軍が革命的同志愛に基づいて一体となって行動するようになった。人民軍に対する党の軍指揮系統がしっかりと構築され、全軍に革命的軍紀が確立され、軍隊内では将兵一致、軍・政融合の美風が高く発揚されている。

人民軍の気高い政治的・思想的品格、革命的気概と戦闘的気迫は、革命的軍人精神に集中的に表われている。

金正日総書記の指導のもとで人民軍に生まれ、強く発揮されている革命的軍人精神は、領袖決死擁護の精神、決死貫徹の精神、英雄的犠牲精神を基本とする高潔な革命精神である。

革命的軍人精神は、人民軍の軍人が党と領袖、祖国と革命のために青春も生命もなげうって戦う闘争精神であり、いかなる大敵をも打ち破り、いかなる難関や試練をも果敢に乗り越えていく必勝不敗の革命精神である。

人民軍の革命的軍人精神は、先軍の時代を象徴し代表する気高い革命精神であり、革命と建設で奇跡を起こし偉勲を立てるための、革命的で戦闘的な思想的・精神的武器となっている。

先軍の時代においては、労働者階級も革命的軍人精神を体得してこそ、その階級的本分と使命を全うすることができ、すべての勤労者が革命的軍人精神を学んでこそ、国家と社会の主人、社会主義的勤労者としての栄誉を固守し、さらに輝かせていくことができる。

全軍、全人民が党のまわりに一心に団結し、革命的軍人精神と闘争気風をもって生き、たたかえば、この世にわれわれにかなう強敵はなく、占領できない要塞はない。

朝鮮人民軍は、時代を代表する革命的軍人精神の創造者、体現者、先導者であり、朝鮮革命の第一線を守っているもっとも強力な戦闘隊伍であるがゆえに、先軍革命の旗手、中核部隊、主力部隊となり、その栄誉をとどろかせているのである。

総書記は著作で、先軍政治は革命の根本理念、根本原則を堅持し、もっとも立派に具現できるようにすると述べた。

社会主義は人民大衆の自主性を完全に実現するための革命の根本理念であり、社会主義社会は労働者階級の要求と志向を具現した社

会である。労働者階級本来の要求と階級的原則を抜きにしては、人民大衆の自主性を実現することも、社会主義偉業を達成することもできない。社会主義強盛大国の建設と祖国統一をめざす朝鮮人民のたたかいは、アメリカ帝国主義をはじめあらゆる敵との熾烈な階級闘争のなかで進められている。朝鮮革命をめぐる複雑かつ厳しい情勢は、すべての分野で階級闘争の線引きを明確にし、労働者階級的原則、革命的原則をさらに確実に堅持していくことを求めている。

このことから朝鮮は、帝国主義との激しい対決のなかで先軍の旗を掲げたのである。

先軍政治が革命の根本理念、根本原則を堅持し、もっとも立派に具現できるようにするのは何よりも、朝鮮の銃が階級の銃、革命の銃であり、反帝階級闘争のもっとも強力な武器であるからである。それはまた、人民軍の革命的軍人精神がほかならぬ労働者階級の階級意識、革命精神の最高の表われであるからである。

それで今日、朝鮮労働党は先軍時代の要請に即して、革命と建設のすべての分野で階級的原則、革命的原則を固守し、軍人と人民に対する階級的教育、革命教育をさらに強化することをゆるがせにできない党の要求として強く押し出している。

朝鮮の軍隊と人民が党の先軍指導に従い、高い階級意識、革命的軍人精神をしっかりと体得するならば、社会主義の階級的基盤はさらに強固なものとなり、いかなる情勢のもとでも社会主義偉業を固守し成功裏に達成することができるようになる。

総書記は著作で次に、先軍政治はチュチェ思想を具現している自主の政治であると述べた。

先軍政治はまず、チュチェ思想を具現して人民大衆の自主性と国

家と民族の自主性を擁護し実現する政治である。
　自主性は社会的人間の生命であり、人民大衆の生命であり、国と民族の生命である。人間中心の思想であるチュチェ思想は自主の思想であり、すべての革命闘争は自主性をめざす闘争である。チュチェ思想は人民大衆に対する愛と国家と民族に対する愛、人民大衆の自主性と国家と民族の自主性を正確に融合させ、それを実現する道を科学的に解明した。
　このように、チュチェ思想の原理と原則に基づき、人民大衆の自主性と国家と民族の自主性を擁護し実現する政治が革命的で科学的な政治であり、真に国と民族、人民を愛する政治というものである。
　先軍政治はまた、国と民族、人民を愛する、尊厳ある気高い政治である。
　不敗の革命武力に依拠する先軍政治は、帝国主義反動勢力のあらゆる侵害から人民大衆の自主的要求と利益、国家と民族の自主権と尊厳をしっかりと守り、それを保証する原則的かつ正当な反帝・自主の政治であり、国と民族、人民を愛する気高い政治である。
　朝鮮人民軍は自衛の革命的武装力として、党と革命、思想と体制、祖国と人民を銃をもって守り、敵の戦争挑発策動を粉砕して国の安全と平和を固守している。
　先軍政治により、朝鮮は複雑かつ厳しい情勢のもとでも、自主の旗を高く掲げ、革命と建設を朝鮮の思想と信念に基づき、朝鮮の実情と朝鮮革命の利益に即して朝鮮式で正々堂々と進めている。
　朝鮮は政治において自主の支柱を打ち立て、あらゆる外部勢力の干渉と圧力を断固として排し、何ごとにもこだわらず、すべてのことを自己の意図に沿って、自己の気概をもって進めている。これは、

朝鮮に先軍政治によってもたらされた強力な軍事力があり、百勝の戦略戦術があるからである。

先軍政治によって、朝鮮の自主性は確実に保証され、社会主義朝鮮は自主のとりでとして、その尊厳と栄誉、権威と威容を誇っているのである。

先軍政治はまた、人民大衆に絶対的に支持され、信頼される強力な民族自主の政治である。

朝鮮の先軍政治は徹頭徹尾、人民のための政治であり、朝鮮人民の自主の権利と根本的利益を擁護し保障する政治であるがゆえに、全人民が絶対的に支持し、忠実に従っているのである。先軍の旗は、外部勢力によって引き裂かれた朝鮮の北と南、海外の全民族に民族自主の意識と自尊心、民族の誇りと栄誉を高め、民族の統一と隆盛、繁栄の道を開く民族の旗じるしとなっている。

今、南朝鮮と海外の朝鮮人のあいだでは、「金正日指導者が先軍政治を行っているので、アメリカは敢えて戦争を起こすことができない」「先軍政治こそは民族を災難から救い上げる人民的政治のモデル」であるとし、等しく先軍政治を支持している。

3　先軍政治の生命力と先軍の旗をいっそう高く掲げていくための課題

著作のこの部分では、先軍政治の生命力がいかに誇示され、先軍の旗をいっそう高く掲げていくための課題は何であるかについて示している。

1）　先軍政治の生命力は朝鮮革命の実践と現実によって明確に示されている。

金正日総書記の先軍指導によって、何よりも朝鮮革命の軍事的基盤が鉄壁のごとく強固なものとなった。帝国主義に反対し、自主と社会主義をめざすたたかいにおいては、国の軍事的威力が第一の国力となり、軍事戦線で敵を抑圧すれば、他のすべての戦線で勝利を収めることができる。

朝鮮人民軍は無敵の革命武力に強化され、社会主義朝鮮は、威力のある軍事強国として国際舞台に堂々と進出できるようになった。

朝鮮は敵のあらゆる侵略策動を粉砕して祖国と革命、社会主義を守ってきた。

こんにちも朝鮮は、アメリカ帝国主義の悪辣な反共和国圧殺策動に超強硬で対応し、痛撃を加えて敵を抑圧し、窮地に陥れている。

次に、先軍の時代に朝鮮の革命隊伍はより固く結束し、社会の一心団結はさらに強化された。

こんにち、朝鮮の軍隊と人民は先軍革命の道で運命をともにする真の同志の関係で固く結ばれており、社会全体に軍民一致の美風が満ちている。軍隊は人民のために献身的に奉仕し、人民は軍隊を肉親のように愛し、誠心誠意援護し、人民軍の革命的軍人精神と闘争気風を積極的に見習って、軍隊と人民は思想を一にし闘争気風も一にしている。

先軍の時代に人民軍は革命と建設のすべての分野で中核的・先導者的役割を果たし、人民は軍隊をもっとも大切にし、気高い軍擁護の気風、軍支援の気風を強く発揮したことで、軍隊と人民の同志としての団結はさらに強固なものとなった。そして、金正日総書記の

先軍指導と兵士を愛し、人民を愛する政治により、朝鮮の一心団結は、一つの思想と信念、同志愛と信義に基づく全党、全軍、全人民の一心団結として新たな高い段階へと発展し、朝鮮革命の政治的・思想的威力は比ぶべくもなく強まった。

先軍政治の生命力は、社会主義建設においても実証されている。

朝鮮人民軍は、社会主義建設の各分野で先頭に立ち、勤労の偉勲を立てて優れた模範を示している。人民軍の将兵は英雄的なたたかいを繰り広げ、数多くの記念碑的建造物や近代的な工場を建設し、経済の困難かつ重要な部門を引き受けて突破口を開いた。人民軍は度重なる難関と試練を率先して乗り越え、すべての分野で奇跡を生み革新を起こし、全国の勤労者を革命的高揚へと奮起させた。

労働者階級をはじめ朝鮮の勤労者は、人民軍の革命的軍人精神と闘争気風を見習って、社会主義建設全般において革新を起こした。人民軍を主力とする先軍政治により、朝鮮は厳しかった「苦難の行軍」、強行軍に耐えぬき、社会主義強盛大国建設の道を切り開き、困難な状況のもとでも革命と建設を大胆かつ積極的に推し進めることができるようになった。

朝鮮の経験は、すべての勤労者が先軍の旗を高く掲げ、人民軍の模範を見習って働くならば、短期間のうちに先端科学技術の要塞を占領し、経済強国を建設するとともに、全社会に厳格な経済管理気風と気高い文化・情操生活気風を確立することができ、人民にこのうえない幸せな生活を営ませることができるということを示している。

また、先軍政治により、祖国統一の画期的局面が開かれ、朝鮮の国際的連帯がさらに強まった。

民族自主の原則、愛国と民族愛の精神で貫かれた先軍政治と、そ

れに基づく朝鮮の祖国統一政策と主動的な努力によって、歴史的な平壌（ピョンヤン）会談が実現し、6・15 北南共同宣言が採択され、北南間の和解と協力の関係が各分野において深化、発展している。こんにち、南朝鮮での反米、反外部勢力、民族自主統一の気運はかつてなく高まっている。

帝国主義の侵略と戦争政策に反対し、国家と民族の自主性を擁護する朝鮮の先軍政治は、世界の広範な社会各界と進歩的人民の共感を呼んでいる。先軍政治は、国際舞台で帝国主義侵略勢力に打撃を与え、反帝・自主勢力を励まし、世界の自主化偉業を力強く促している。

2)　先軍の旗をいっそう高く掲げていくための課題。

金正日総書記の指導のもと、朝鮮は先軍の旗を高く掲げ、荒波を乗り越えて歴史的奇跡を生み、勝利の道を歩んできた。

朝鮮労働党の先軍革命路線は、現時代の偉大な革命路線であり、百戦百勝の旗じるしである。

こんにち、内外情勢はきわめて厳しく複雑であり、そうであればあるほど、朝鮮は先軍の旗をいっそう高く掲げている。

先軍の旗をいっそう高く掲げるためには何よりも、軍隊の強化に引き続き多大な力を尽くすべきである。

先軍政治の威力はすなわち、軍隊の威力である。したがって、人民軍を政治的、思想的に、軍事技術的にしっかりと鍛えなければ、先軍政治の優越性と威力を力強く発揮させることはできない。

総書記は、人民軍に対する党の指導を強めなければならないと述べた。朝鮮労働党の指導は朝鮮人民軍の生命である。

総書記は、人民軍を朝鮮労働党の第一の防衛者、朝鮮労働党の思想と指導に生命を賭して従う革命的武装隊伍に強化し、党と領袖の軍隊としての高い栄誉をとどろかせてきた誇るべき歴史と伝統を固守し、それらをいっそう輝かせていかなければならないと述べた。

そして、情勢が複雑かつ緊張すればするほど、人民軍の政治・思想活動と軍事活動をさらに強化し、すべての軍人がいかなる情勢や環境のもとでも、革命的警戒心を高め、動員態勢を堅持するようにするとともに、人民軍は、帝国主義侵略者がいつどこから攻めてきても、徹底的に撃滅できるよう、つねに準備されていなければならないと指摘した。

次に総書記は、軍隊と人民の一心団結をいっそう強化し、革命の政治的・思想的基盤と軍事的基盤を盤石のごとく強固なものにしなければならないと述べた。

軍隊と人民が一心同体となってたたかえば、恐るべきものはなく、不可能なこともない。

総書記は、軍人と人民が互いにいたわり愛し合い、生死、苦楽をともにしてきた軍民一致の伝統的な美風を、先軍の時代にいっそう強く発揮しなければならないと述べた。

総書記はまた、社会全体に軍事を重視する気風を確立すべきだと指摘した。

国防力を強化することは、全党的、全国家的、全人民的な事業である。

総書記は、すべての活動を軍事優先の原則に立っておこない、国の軍事的威力を強めるために極力努力するとともに、民間武力を強化し、全国を強固な要塞にすべきだと述べた。

そして、先軍時代の要請に即して、国防工業を先行させながら経済建設全般を力強く推進し、先軍政治を物質、技術面から保証し、短期間の内に人民の生活を画期的に向上させなければならないと述べた。

総書記は、著作の終りの部分で、すべての幹部と勤労者が先軍思想、先軍政治の正当性と不敗性を確たる信念とし、つねにその要求にそって働き生活し、社会全体に革命的気概と戦闘的気迫がみなぎるようにすべきだと強調した。

また、朝鮮の軍隊と人民が革命の新しい時代を先軍の時代として輝かしてきたと指摘し、先軍の旗のもと、朝鮮革命偉業を成功裏に前進させ、最後まで達成していく確固たる意志を表明した。

金正日総書記の著作『先軍革命路線はわれわれの時代の偉大な革命路線であり、朝鮮革命の百戦百勝の旗じるしである』は、朝鮮でその生命力が実証された先軍革命路線、先軍政治を総合的に体系化したものである。